

報 恩 寺 だ よ り

昭和 5 7 年 3 月 3 0 日

神奈川県綾瀬市寺尾南 2-10-1

おたすけ観音 報 恩 寺

電話 0467-78-7160

◎ 開山忌勤修について

報恩寺の御開山、朝岩尊夙大和尚の報恩法要と、17日はおたすけ観音の縁日
ですので、大般若祈禱会を次により行いますので是非御参詣をお願いいたします。

記

1. 期 日 4月17日(土)
2. 日 程 午後1時 開山忌法要
午後1時半 大般若祈禱会
午後2時~3時 法話 善浪鉄心老師(横浜 正観寺住職)
午後3時 小 斉

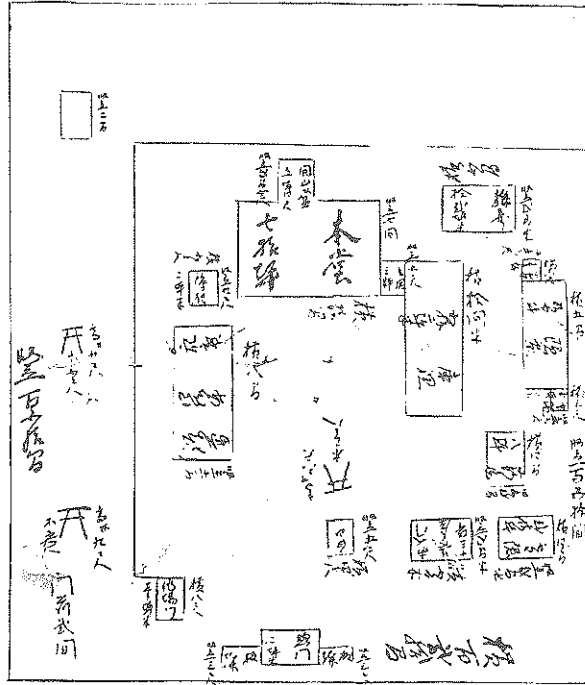
◦香資(2,000円)は当日御志納お願いいたしたく存じます。

◎ 報恩寺絵図面

この図面は、寛政2年(1790)に寺社奉行書に提出した「差上申寺中坪数諸堂絵図面之事」です。

寺社奉行所

右給深谷道相造之御代に於て
 寛政二年申す所
 相宗寺の御代に於て
 報恩寺



差上申寺中坪数諸堂絵図面之事
 御朱印高八石
 境内坪数一万八千坪
 相宗寺の御代に於て
 報恩寺

幕府からの御朱印高は八石で、境内坪数一万八千坪と記されています。現在の墓地の上のブロック塀の長さが百間なので、この幅で、東岳工業寮の西のバス道路から、ゴルフ場の西まで、180間が幕府の認めた境内地であったと考えられます。

境内建物の総坪数は248坪で、現在の建築面積と殆んど同じです。本堂は7間×10間で、現在の9間弱よりも大きく、庫裡と相対しては、5間×8間の衆療があります。

当時の報恩寺には、僧3名と寺男3名が住んでいましたが、衆療には一番若い修行僧が住んでいました。同じ頃、深谷の長龍寺にも、葛原の乗福寺にも衆療は有りました。

更に150年前の慶安2年(1649)に、寺社奉行所に報告書を出していますが、それによると本堂は7間×11間と7坪大きく、小庫裡も6間×4間と9坪大きく、庫裡と衆療は殆んど同じ大きさです。

報恩寺は慶長7年(1602)8月に朝岩尊夙大和尚によって開山されましたが、最初から大規模な建築がなされていた事が理解出来ます。安政6年(1859)の檀家数164戸、殆んど同じ戸数と見られる、明治12年(1870)には檀徒人員948人であることは、1戸平均5.8人の家族構成であったと云えます。